

小笠原父島産のハマダイに捕食されていたキングホシエソ（ホテイエソ科）の記録

前田 達郎¹・手良村 知功^{2*}
Tatsuro MAEDA¹, Akinori TERAMURA^{2*}

ホテイエソ科の魚類は日本国内から 11 属 37 種が知られており、そのうちチヒロホシエソ属 *Bathophilus* は日本国内から 6 種が知られている（本村，2020）。

2020 年 1 月 17 日、小笠原村父島で水揚げされたハマダイの口腔内からキングホシエソ *Bathophilus kingi* Barnett & Gibbs, 1968 が採集された。本種の日本からの記録は藍澤・土居内（2013）が小笠原近海および本州南岸の黒潮流域から記録しているが、この標本は小笠原諸島における 2 例目の記録となる。加えて、ハマダイによる本種の初の捕食例となることからここに報告する。なお、本標本は神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM-NI 59771）に所蔵されている。本標本の採集に協力してくださった匿名者および本標本を管理していただいている瀬能 宏博士を筆頭とする神奈川県立生命の星・地球博物館の皆様にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。

標本

KPM-NI 59771、2020 年 1 月 17 日、体長 117.2 mm 東京都小笠原村父島地先、ハマダイの口腔内から採集、2020 年 1 月 17 日、前田 達郎採集（図 1）。

備考

本標本は背鰭起部が臀鰭起部と同位、下顎が湾曲しない、腹鰭起部は体側中央にある、胸鰭軟条数が 3+1=4（左体側部は欠損していたため、右体側を計数）、背鰭鰭条数 14、臀鰭鰭条数 13 であることが Barnett and Gibbs（1968）および藍澤・土居内（2013）の示した識別的特徴に一致したため、*Bathophilus kingi* に同定された。

なお、本標本は体側部の欠損が大きく、本属魚類の識別に重要な形質である腹鰭鰭条数、腹部腹側発光器（VAV）、

腹部体側発光器（VAL）を計数することができなかったが、胸鰭軟条数から *Bathophilus ater* (Brauer, 1902) と *Bathophilus flemingi* Aron and McCrery, 1958 を除く同属他種と区別した。*B. ater* と *B. flemingi* とは本標本の背鰭鰭条数が 14、臀鰭鰭条数が 13 であることから区別することができる [*B. ater*: 背鰭鰭条数 17, 臀鰭鰭条数 17; *B. flemingi*: 背鰭鰭条数 15-16, 臀鰭鰭条数 16-17 (Aron and McCrery, 1958)]

引用文献

- 藍澤正宏・土居内 龍．2013．ホテイエソ科．pp. 393–407, 1841–1843. In: 中坊 徹次（編）．日本産魚類検索全種の同定 第三版．東海大学出版会，秦野．
- Aron, W. and P. McCrery. 1958. A description of a new species of stomiatid from the North Pacific Ocean. *Copeia*, 1958: 180–183.
- Barnett M. A. and Gibbs Jr. R. H. 1968. Four new stomiatoid Fishes of the genus *Bathophilus* with a revised key to the species of *Bathophilus*. *Copeia*, 1968: 826–832.
- 本村浩之．2020．日本産魚類全種目録．これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島．560 pp.



図 1 キングホシエソ *Bathophilus kingi* (KPM-NI 59771)、体長 177.2 mm、小笠原父島産。